3．質問紙調査結果（児童生徒、学校）

※ [　] 内の数字は相関係数

(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

分析結果のポイント

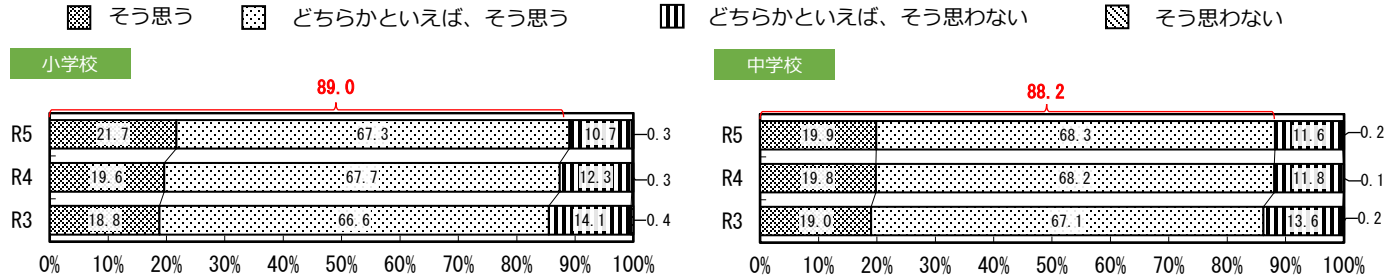
○昨年度までと同様、各学校において、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組が実施されている。また、主体的・対話的で深い学びに取り組んでいる児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

○昨年度までと同様、個別最適な学び（個に応じた指導）・協働的な学びに関する取組が実施されている。

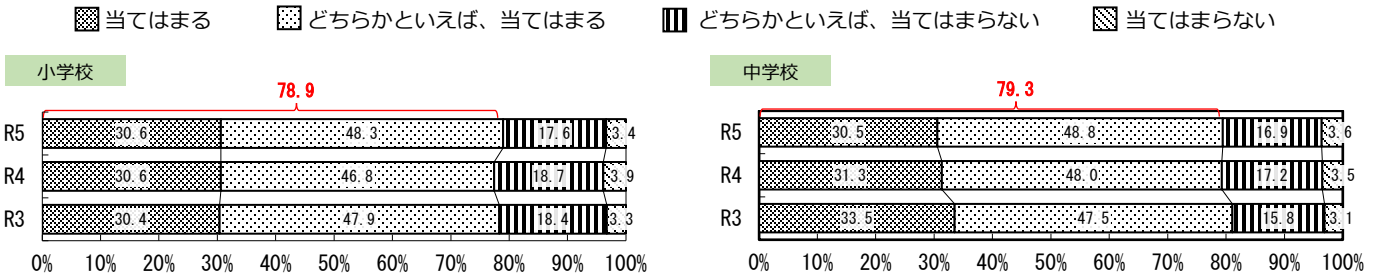
○授業の中で、主体的・対話的で深い学びに取り組んだ児童生徒は、家庭の社会経済的背景（SES）が低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる。

① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

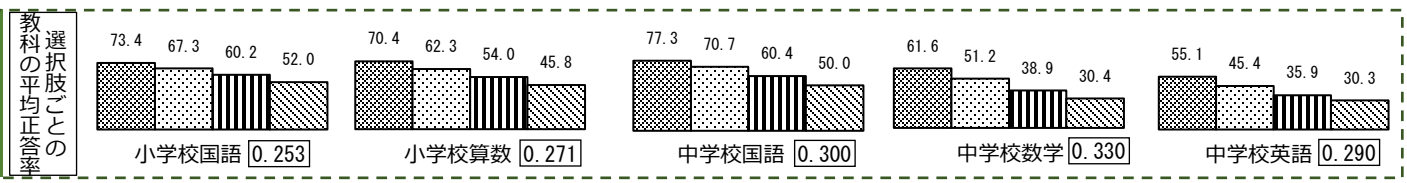
【学校】 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。



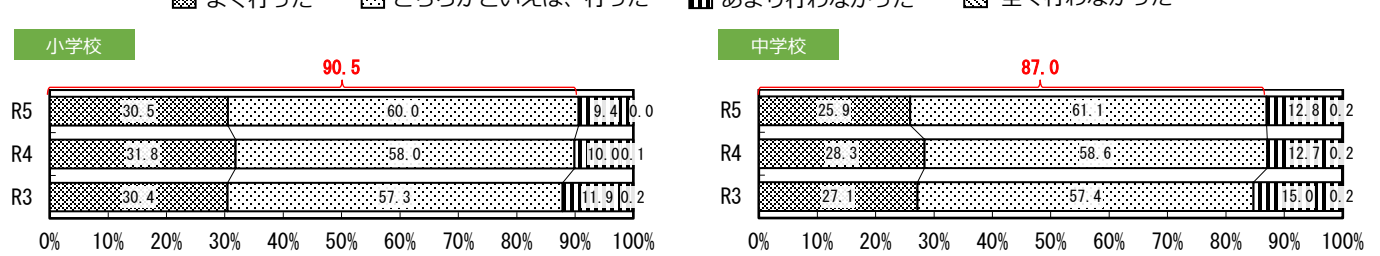
【児童生徒】 ５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



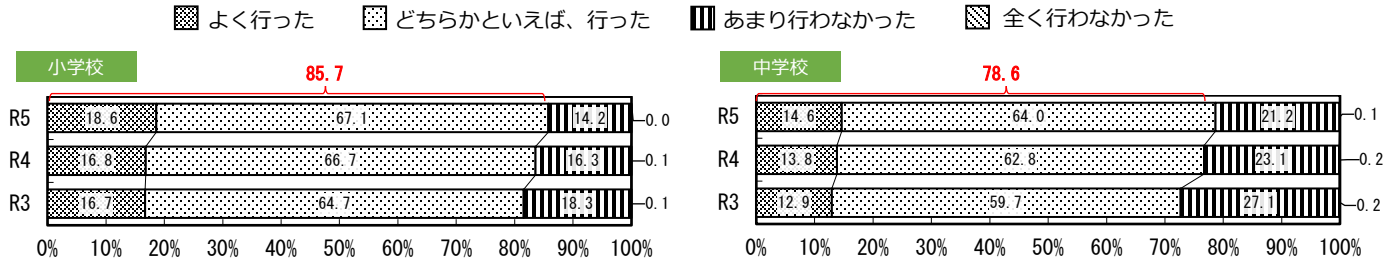
クロス集計



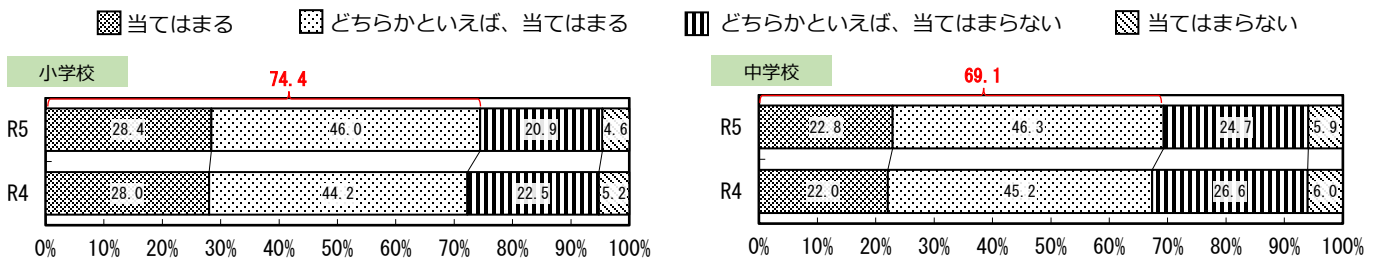
【学校】 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。



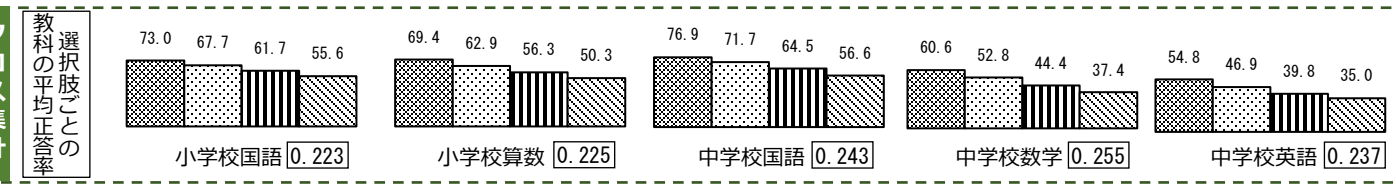
【学校】 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。



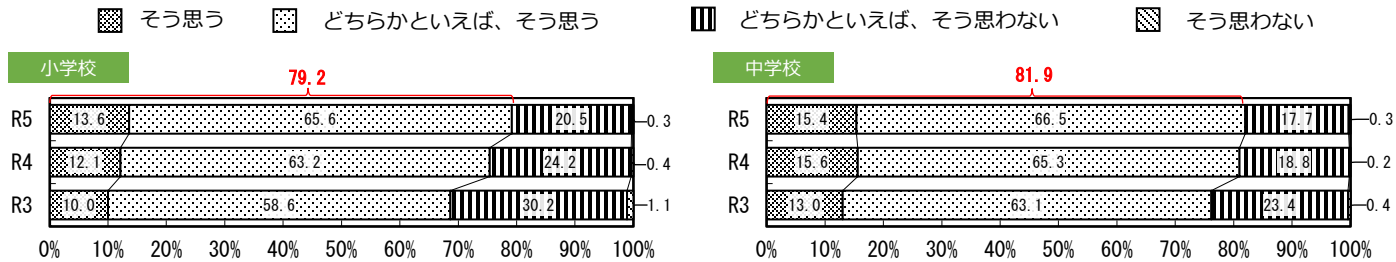
【児童生徒】 ５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。



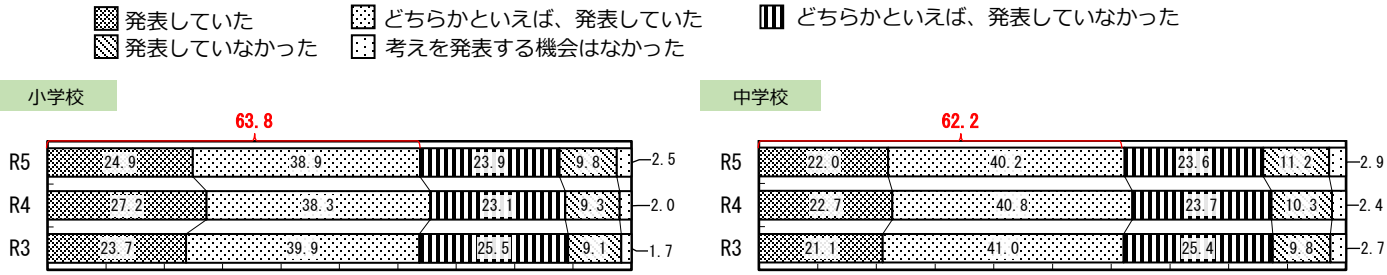
クロス集計 選択肢ごとの教科の平均正答率



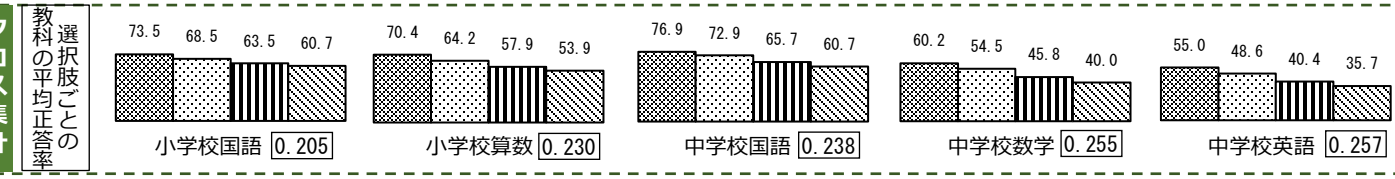
【学校】 調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか。



【児童生徒】 ５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



クロス集計 選択肢ごとの教科の平均正答率



「社会経済的背景(SES)」「主体的・対話的で深い学び」「平均正答率」の関係

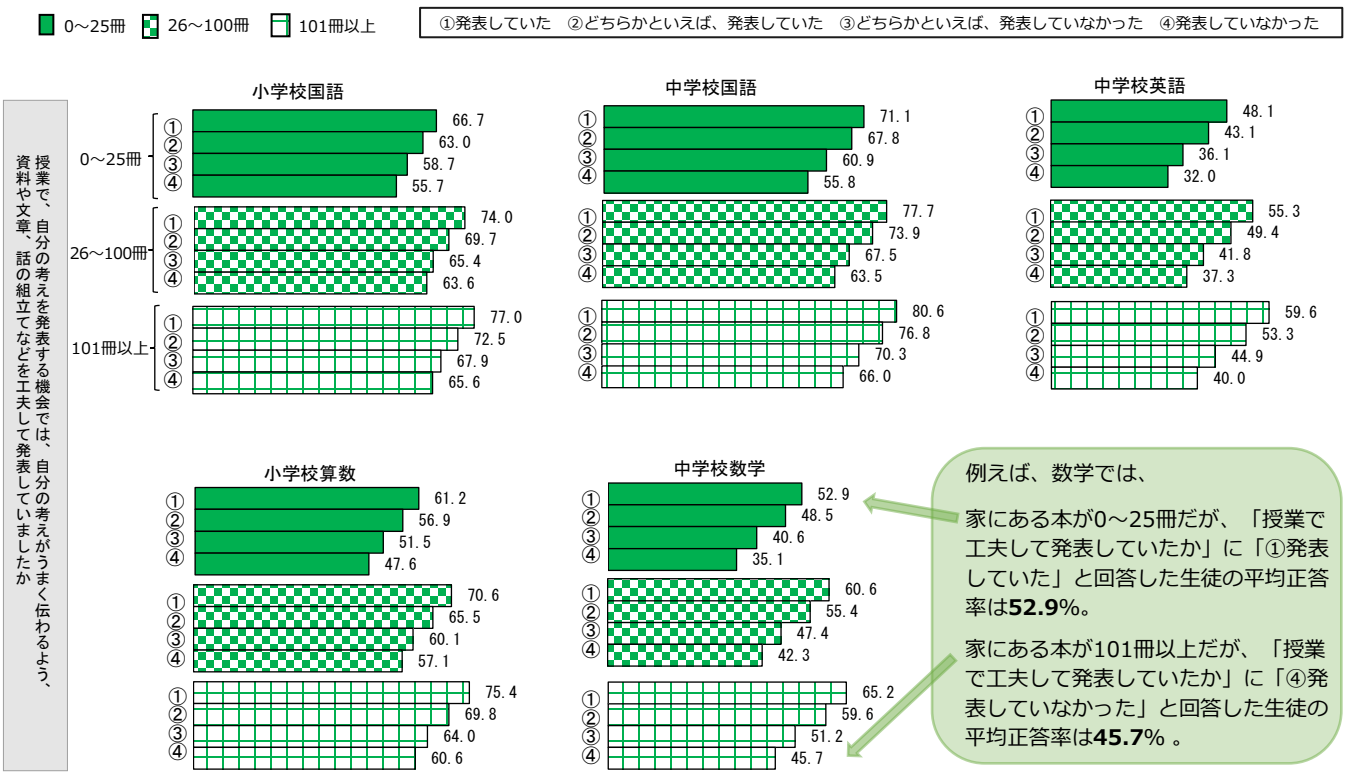
○家庭の社会経済的背景(SES: Socio-Economic Status)*が低い児童生徒ほど、各教科の正答率が低い傾向が見られる。

○しかし、**「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ児童生徒は、SESが低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる。**

* 本資料では、国際学力調査も参考に、「家にある本の冊数」を家庭のSESの代替指標として用いている。

三重クロス集計

［家にある本の冊数］×［授業で工夫して発表していたか］×［各教科の平均正答率］



例えば、数学では、

家にある本が0～25冊だが、「授業で工夫して発表していたか」に「①発表していた」と回答した生徒の平均正答率は**52.9%**。

家にある本が101冊以上だが、「授業で工夫して発表していたか」に「④発表していなかった」と回答した生徒の平均正答率は**45.7%** 。

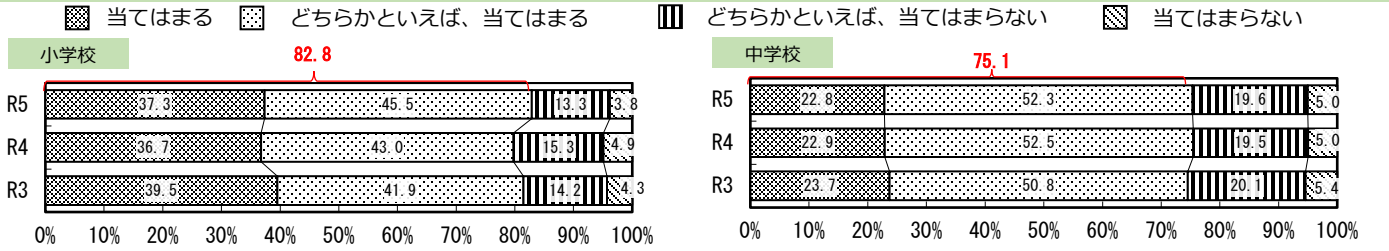
（※）他の「主体的・対話的で深い学び」に関する設問においても同様の傾向が見られる。

（参考）SESと平均正答率との関係等については、令和4年度文部科学省委託研究（受託者：福岡教育大学、お茶の水女子大学）においても詳細に分析を行っている。

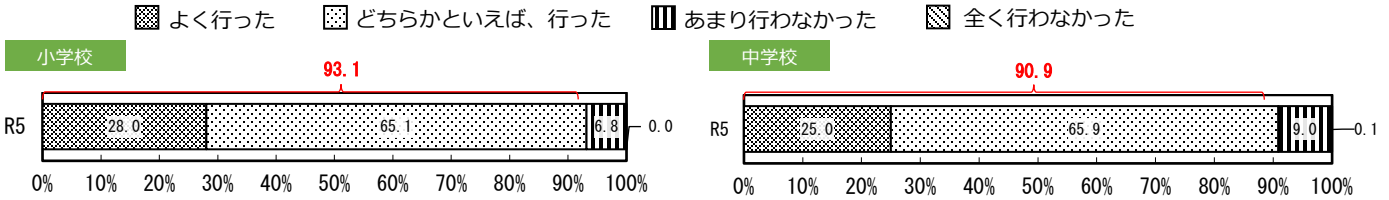
☞ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1416304_00008.html

② 個別最適な学び（個に応じた指導）・協働的な学びに関する状況

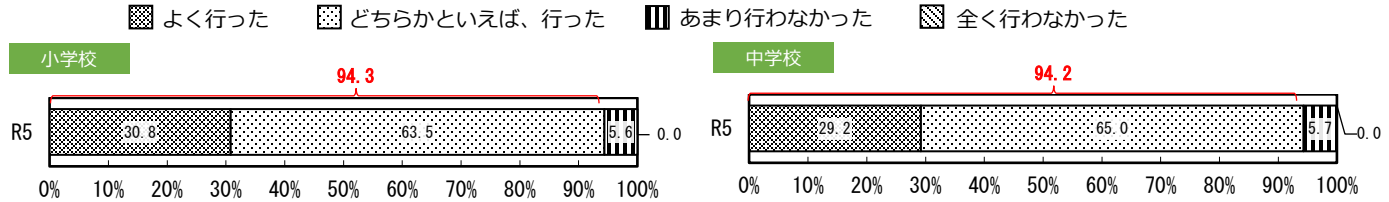
【児童生徒】 ５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。



【学校】 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか。　（新規）

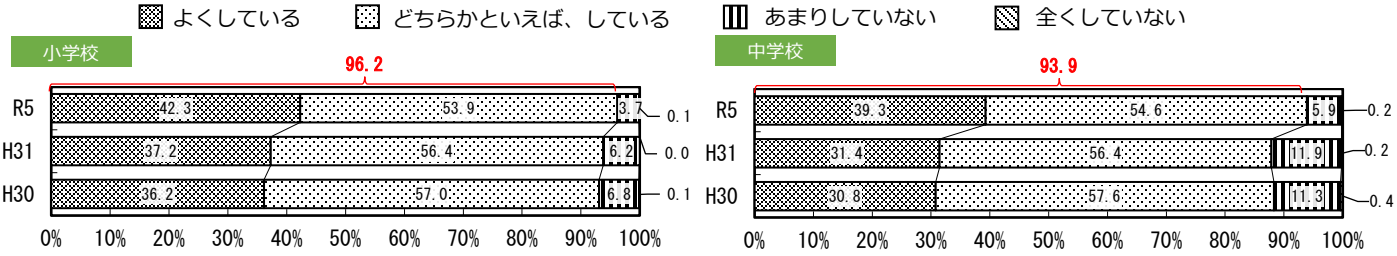


【学校】 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか。　（新規）

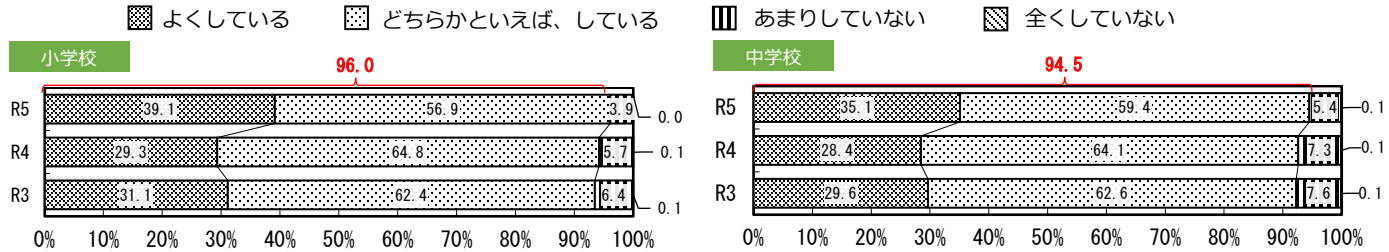


③ カリキュラム・マネジメントに関する取組状況

【学校】 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか。



【学校】 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。



(2) 英語の学習状況

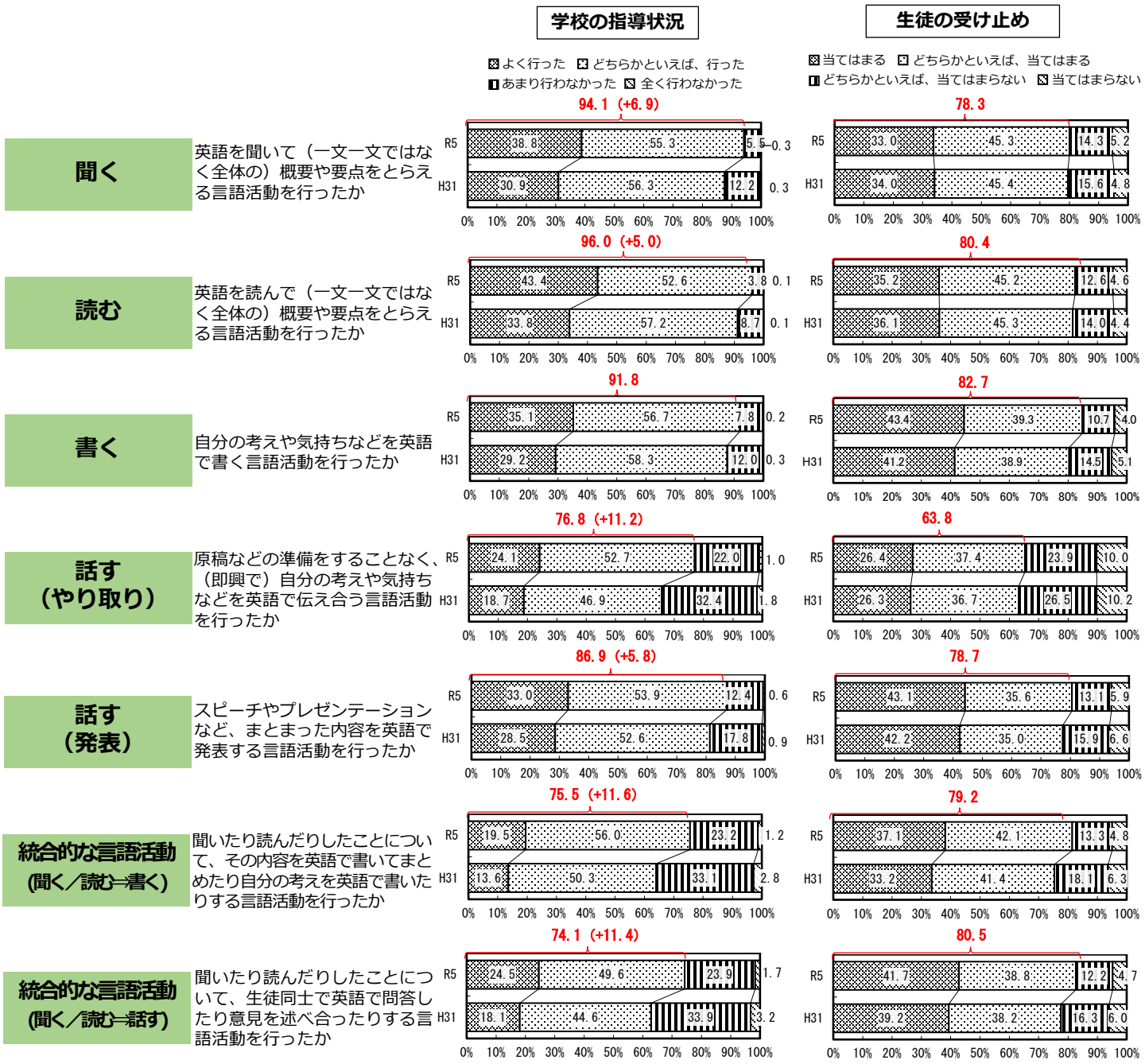
① 学校における言語活動等の取組状況

外国語科における言語活動とは、<u>実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う</u>などの活動を意味する。

分析結果のポイント

○学校の言語活動（領域別）の指導状況について、肯定的に回答した学校の割合は前回よりも増加しており、特に「話す（やり取り）」や「統合的な言語活動」に取り組んでいると肯定的に回答した学校の割合は、11ポイント以上増加している。

○授業において言語活動に取り組んでいると受け止めている中学校生徒の方が、英語の平均正答率が高い傾向が見られる。

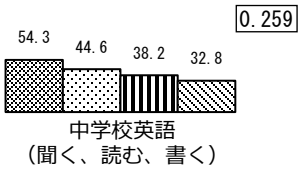


クロス集計

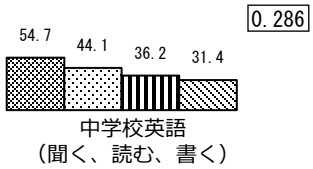
選択肢ごとの英語の平均正答率

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

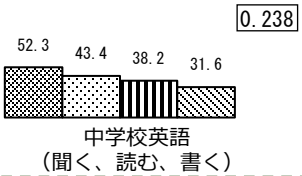
<聞く>【生徒】英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。



<読む>【生徒】英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。



<書く>【生徒】自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか。



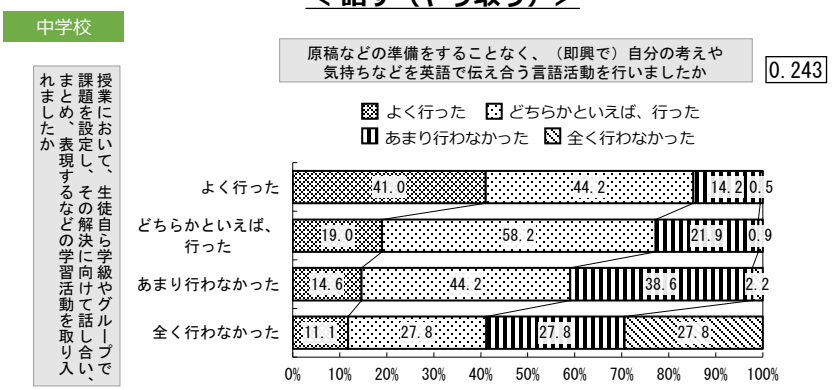
「話すこと」の言語活動と「主体的・対話的で深い学び」との関係

○今回の調査結果からは、授業で「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組んでいる中学校ほど、英語「話すこと（やり取り・発表）」の言語活動にも取り組んでいる傾向が見られる。

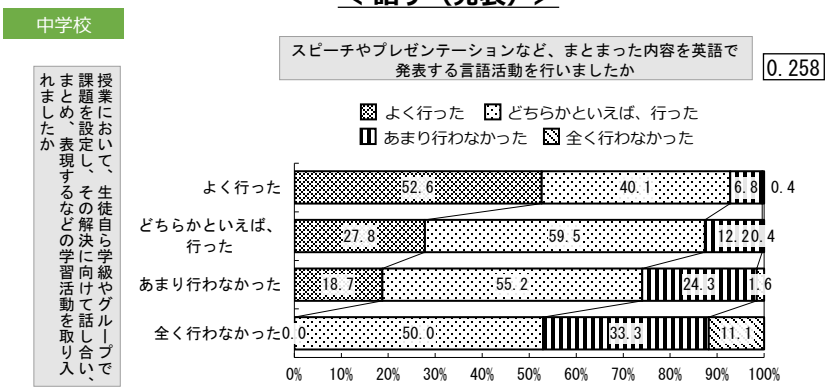
クロス集計

［主体的・対話的で深い学び］×［「話すこと」の言語活動］

＜話す（やり取り）＞



＜話す（発表）＞



（※）他の「主体的・対話的で深い学び」に関する設問においても同様の傾向が見られる。

○この傾向からは、**学校全体として各教科等を通じた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、生徒に話合いや発表といった学習活動に取り組ませることが、英語の「話すこと」の言語活動の実施にも良い影響を与えている**ことが示唆されていると言える。

「社会経済的背景(SES)」「言語活動」「英語の平均正答率」の関係

○家庭の社会経済的背景(SES: Socio-Economic Status)*が低い生徒ほど、英語の正答率が低い傾向が見られる。

○しかし、**言語活動に取り組んだ生徒は、SESが低い状況にあっても、英語の正答率が高い傾向が見られる。**

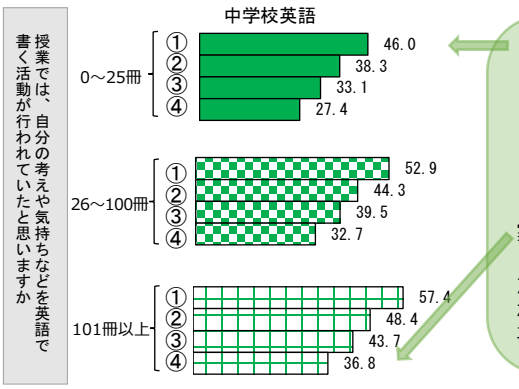
＊本資料では、国際学力調査も参考に、「家にある本の冊数」を家庭のSESの代替指標として用いている。

三重クロス集計

■ 0～25冊　▩ 26～100冊　⊞ 101冊以上

①当てはまる　②どちらかといえば、当てはまる　③どちらかといえば、当てはまらない　④当てはまらない

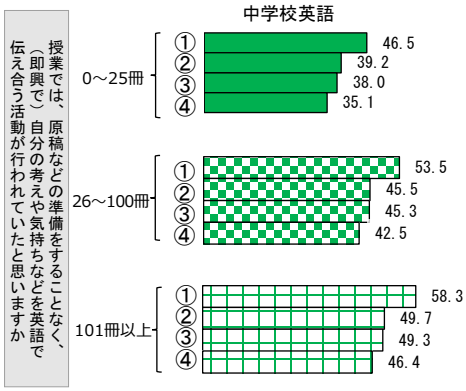
［家にある本の冊数］
×［英語で書く活動が行われていたと思うか］
×［英語の平均正答率］



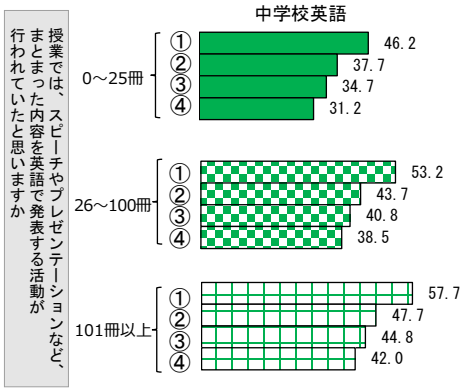
家にある本が0～25冊だが、「英語で書く活動が行われていたと思うか」に「①当てはまる」と回答した生徒の英語の平均正答率は**46.0**%。

家にある本が101冊以上だが、「英語で書く活動が行われていたと思うか」に「④当てはまらない」と回答した生徒の英語の平均正答率は**36.8**%。

［家にある本の冊数］
×［英語で伝え合う活動が行われていたと思うか］
×［英語の平均正答率］



［家にある本の冊数］
×［英語で発表する活動が行われていたと思うか］
×［英語の平均正答率］



（※）「聞くこと」「読むこと」の言語活動に関する設問においても同様の傾向が見られる。

② 英語学習に対する興味・関心や授業の理解度等

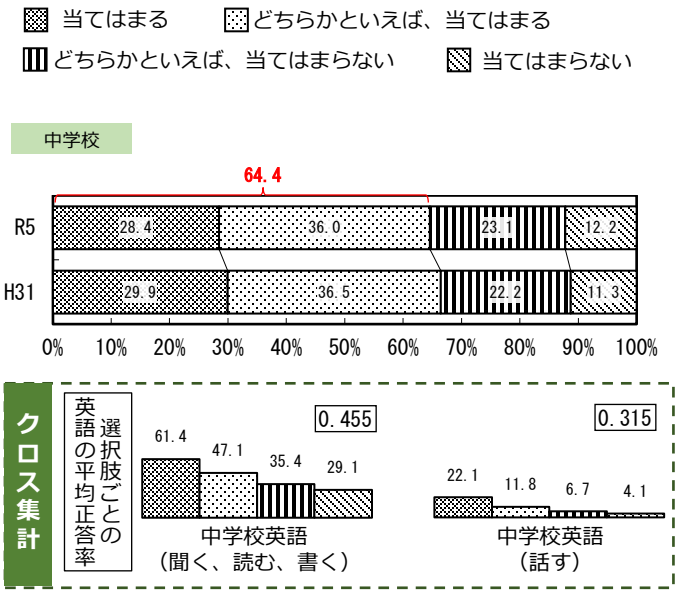
分析結果のポイント

○「英語の勉強は好きか」との問に肯定的に回答する中学校生徒の割合は、小学校児童よりも約17ポイント少ない。

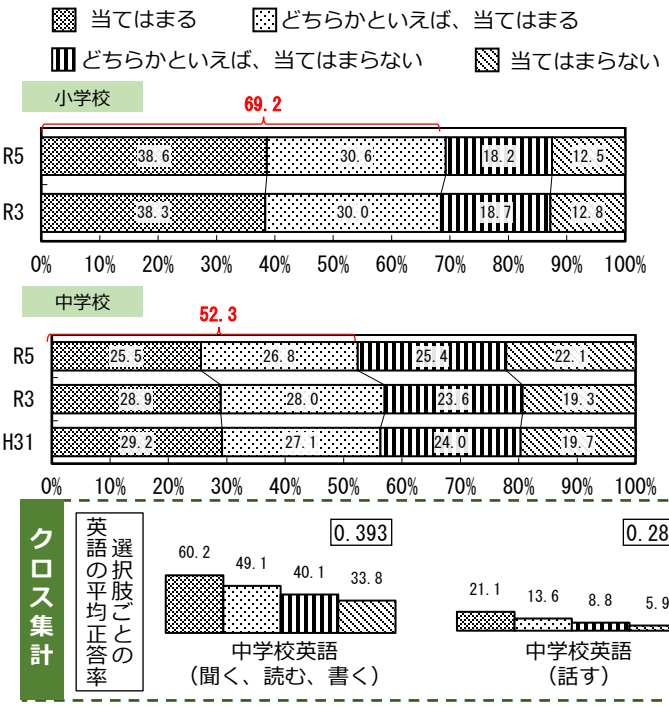
○「英語の授業の内容はよく分かる」「英語の勉強は好き」「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」と回答した中学校生徒の方が、英語の平均正答率が高い傾向が見られる。

○言語活動に取り組んでいたと受け止めている中学校生徒ほど、「英語の授業の内容はよく分かる」「英語の勉強は好き」と回答している傾向が見られる。

【生徒(中のみ)】英語の授業の内容はよく分かりますか。

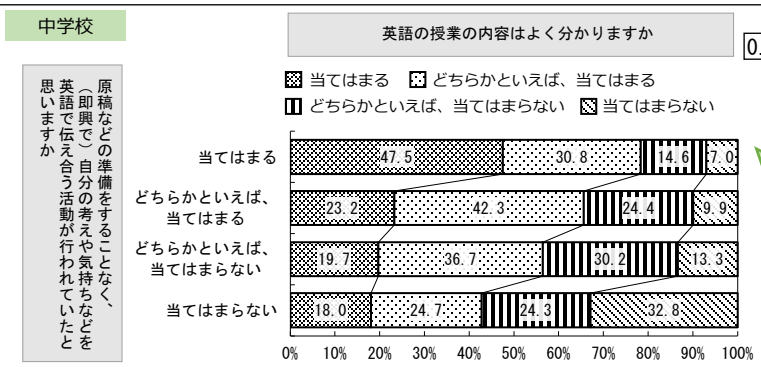


【児童生徒】英語の勉強は好きですか。



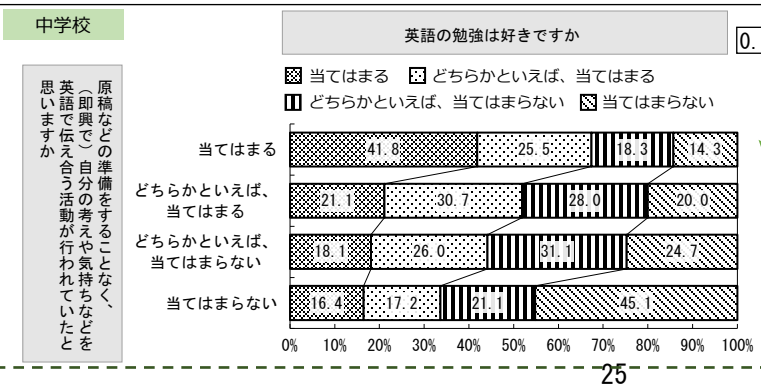
クロス集計

［「話すこと（やり取り）」の言語活動］×［英語の授業の内容はよく分かる］



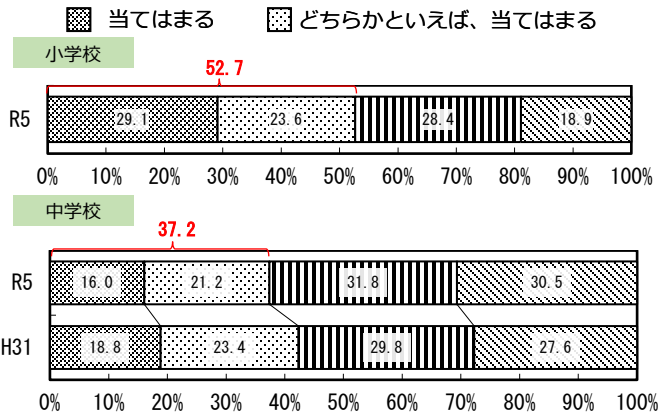
「英語の授業の内容はよく分かるか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全体で見ると**28.4**%だが、
「英語で伝え合う活動が行われていたと思うか」に「当てはまる」と回答した生徒のうち、「英語の授業の内容はよく分かるか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は**47.5**%。

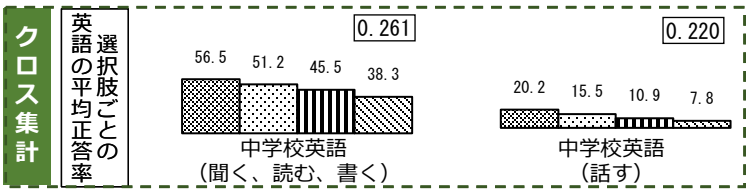
［「話すこと（やり取り）」の言語活動］×［英語の勉強は好き］



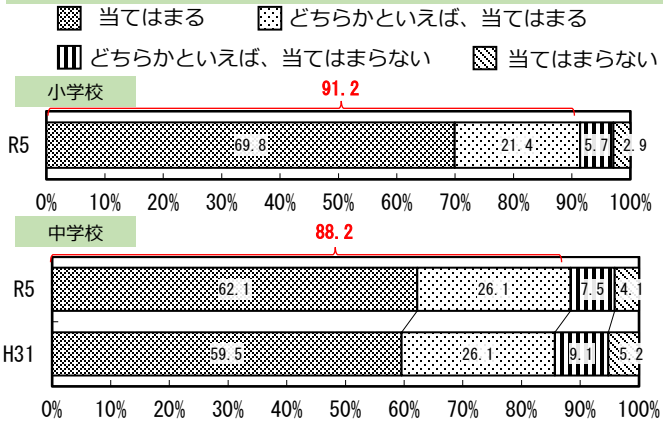
「英語の勉強は好きか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全体で見ると**25.5**%だが、
「英語で伝え合う活動が行われていたと思うか」に「当てはまる」と回答した生徒のうち、「英語の勉強は好きか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は**41.8**%。

【児童生徒】将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。

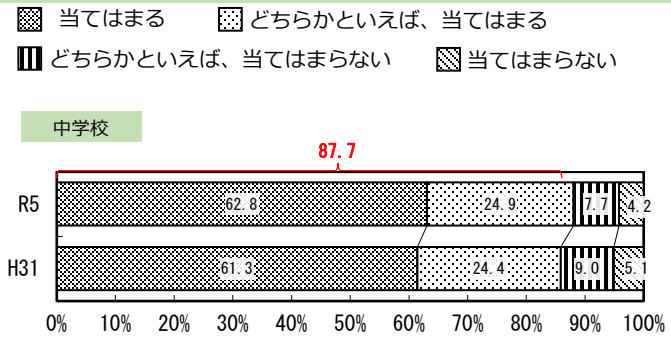




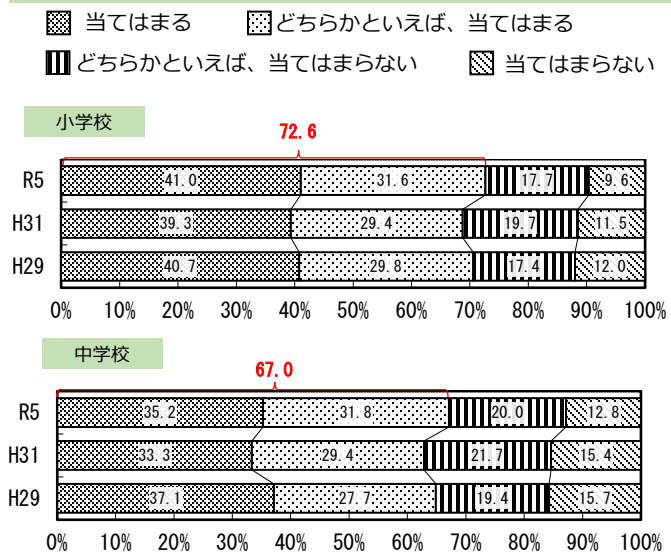
【児童生徒】英語の勉強は大切だと思いますか。



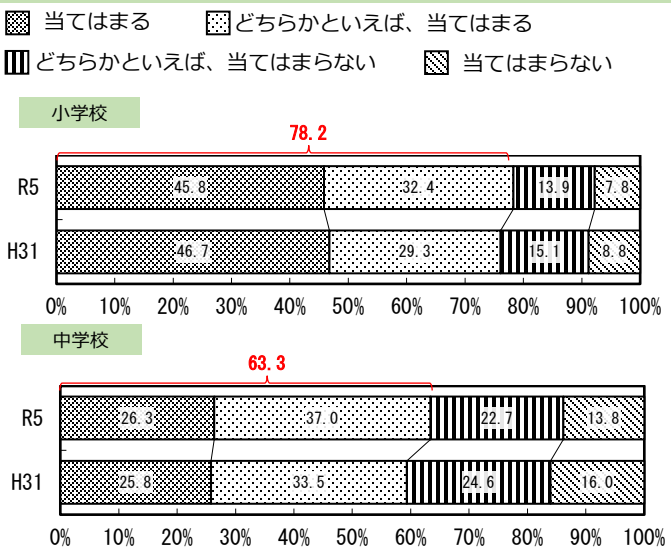
【生徒(中のみ)】英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



【児童生徒】外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか。



【児童生徒】日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。

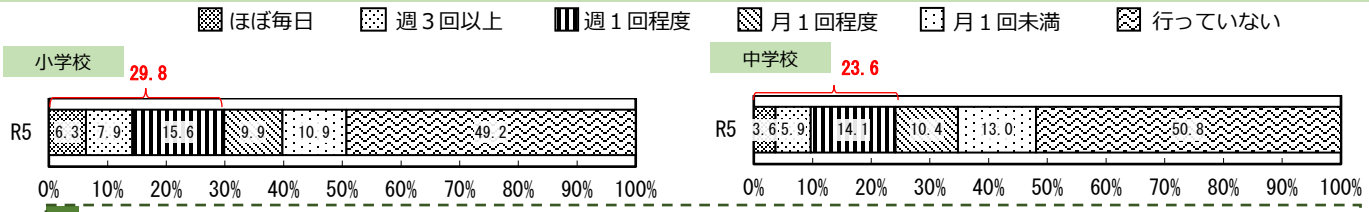


③ 授業外における英語学習の取組

分析結果のポイント

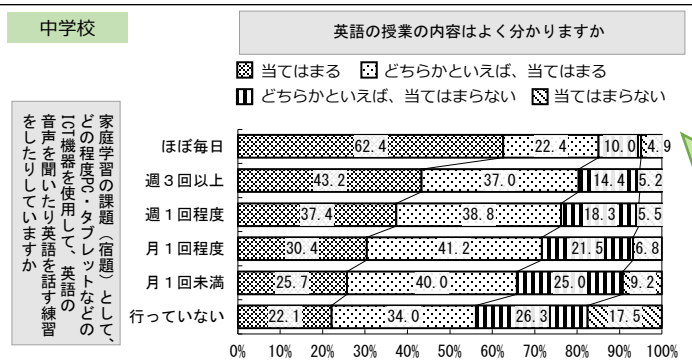
○家庭学習においてICT機器を活用して英語の学習に取り組んでいる頻度が高い中学校生徒の方が、「英語の授業の内容はよく分かる」「英語の勉強は好き」と回答している傾向が見られる。

【児童生徒】家庭学習の課題（宿題）として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか。（新規）



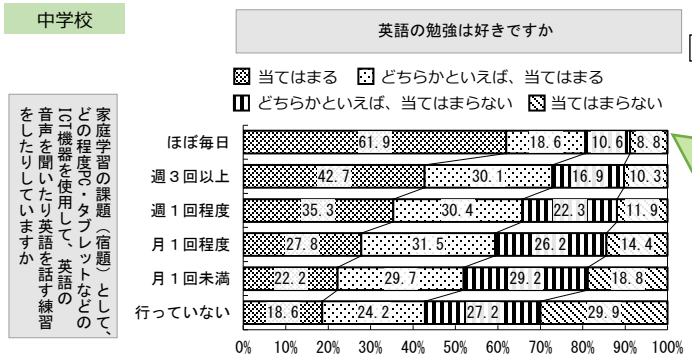
クロス集計

［家庭学習でのICT機器の使用頻度］×［英語の授業の内容はよく分かる］



「英語の授業の内容はよく分かるか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全体で見ると**28.4%**だが、
「家庭学習としてICT機器を使用した頻度」につき「ほぼ毎日」と回答した生徒のうち、
「英語の授業の内容はよく分かるか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は**62.4%**。

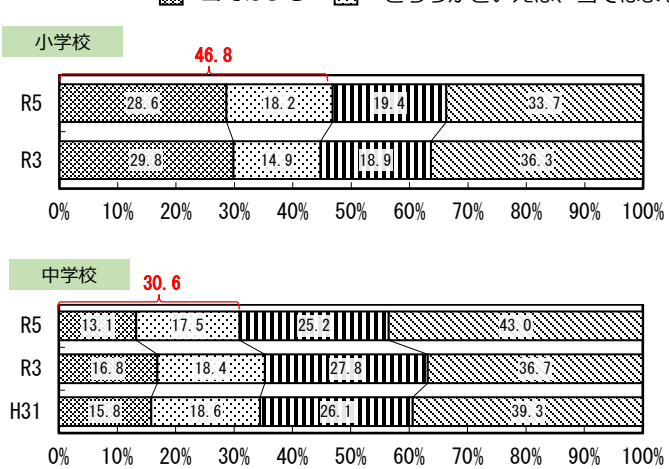
［家庭学習でのICT機器の使用頻度］×［英語の勉強は好き］



「英語の勉強は好きか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は、全体で見ると**25.5%**だが、
「家庭学習としてICT機器を使用した頻度」につき「ほぼ毎日」と回答した生徒のうち、
「英語の勉強は好きか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合は**61.9%**。

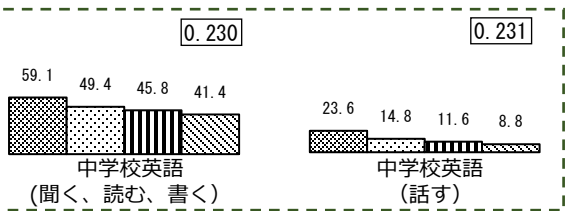
【児童】これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか。（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、PC・タブレットなどのICT機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）

【生徒】これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか。（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）



クロス集計

英語の選択肢ごとの平均正答率



(3) ICTを活用した学習状況

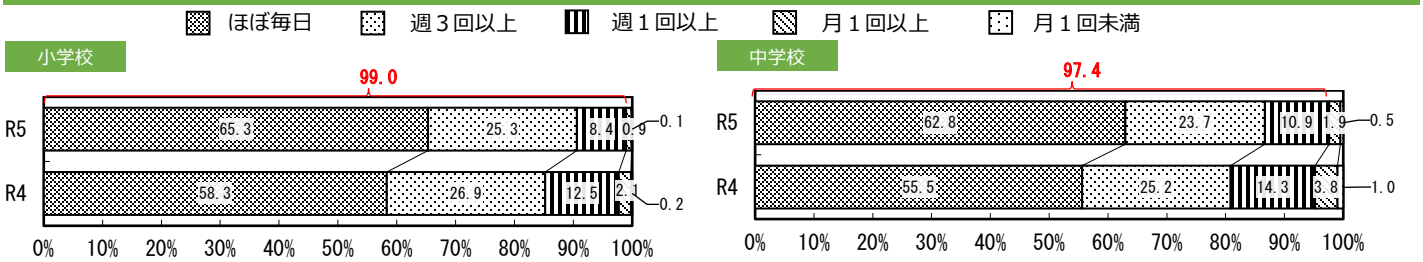
① ICTの活用状況等

分析結果のポイント

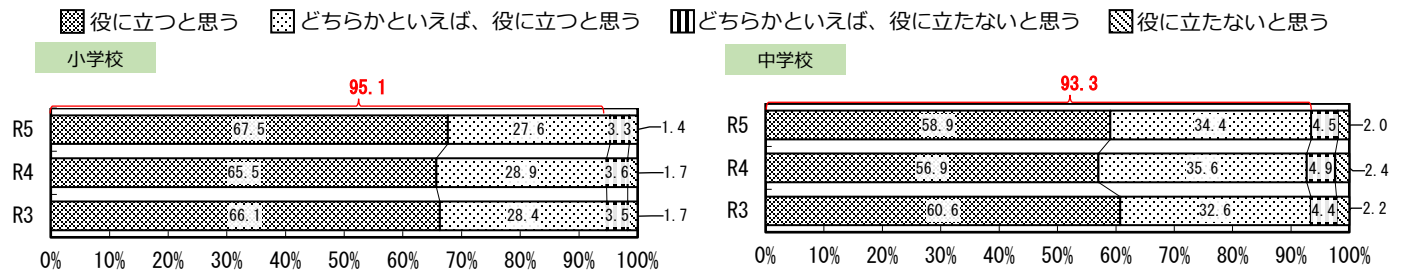
○ICT機器の活用が進んでいる。授業においてICT機器を「ほぼ毎日」活用している割合は、昨年度より小中学校ともに約７ポイント増加している。

○ICT機器が、不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒、外国人児童生徒に対する学習活動等の支援や、児童生徒の心身の状況の把握等にも活用されている。

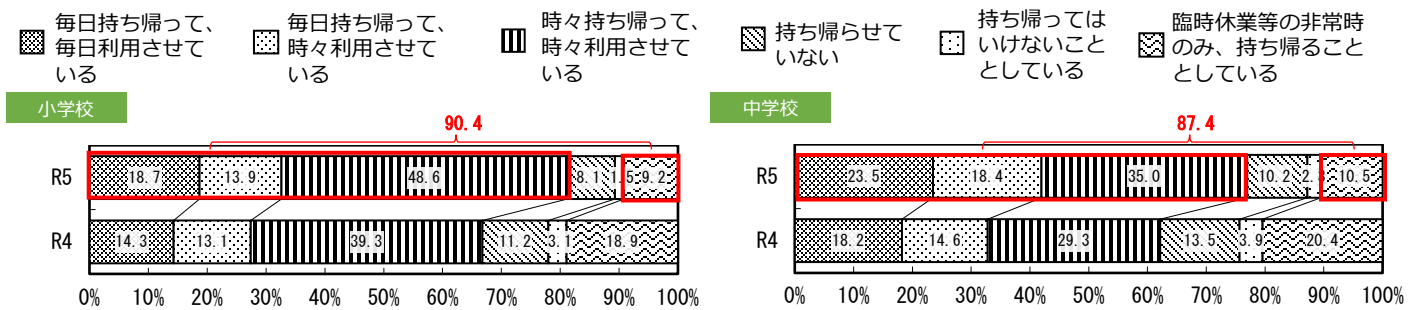
【学校】調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。



【児童生徒】学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



【学校】児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。

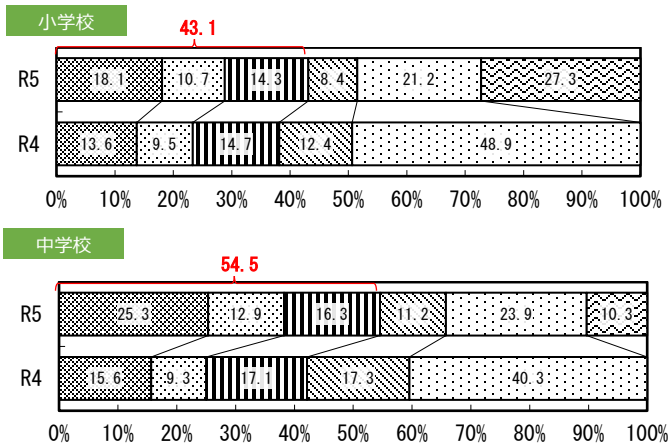


【学校】児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、以下のような用途でどの程度活用していますか。

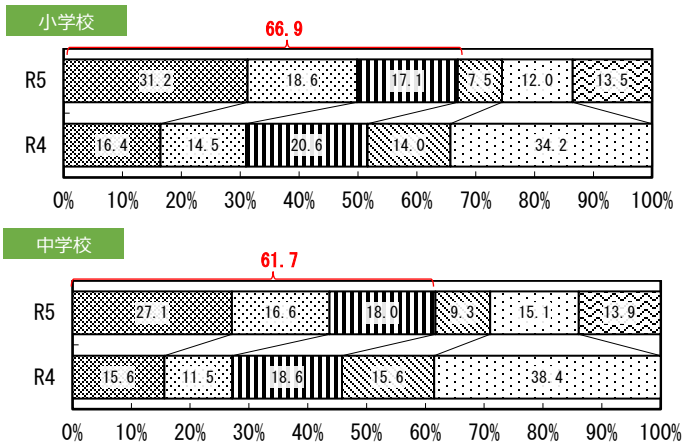
ほぼ毎日　週３回以上　週１回以上　月１回以上　月１回未満　該当する児童生徒がいなかった

※「該当する児童生徒がいなかった」はR5新規選択肢

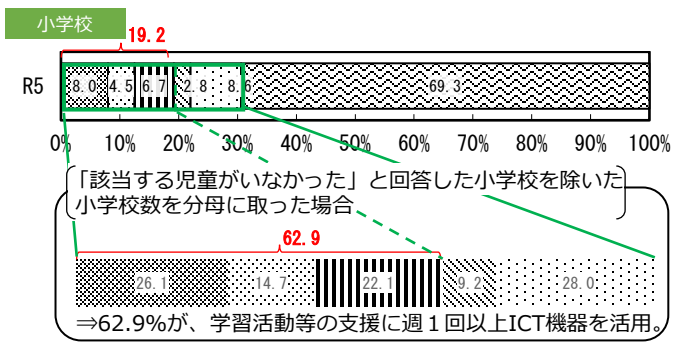
(1) 不登校児童生徒に対する学習活動等の支援

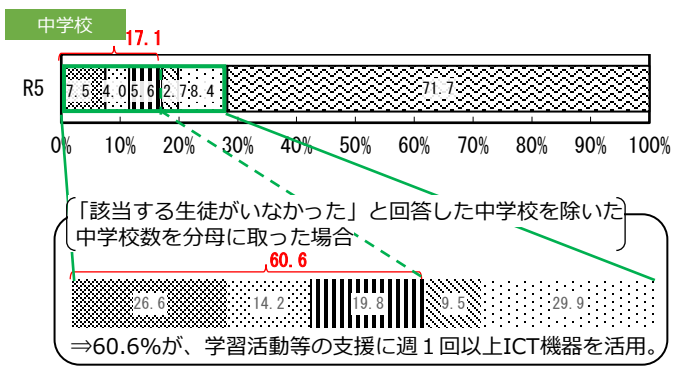


(2) 特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援

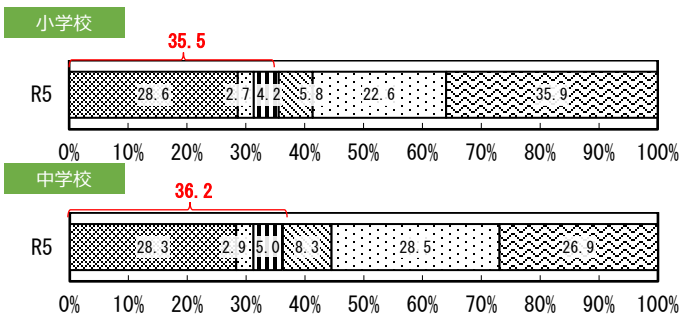


(3) 外国人児童生徒に対する学習活動等の支援（新規）

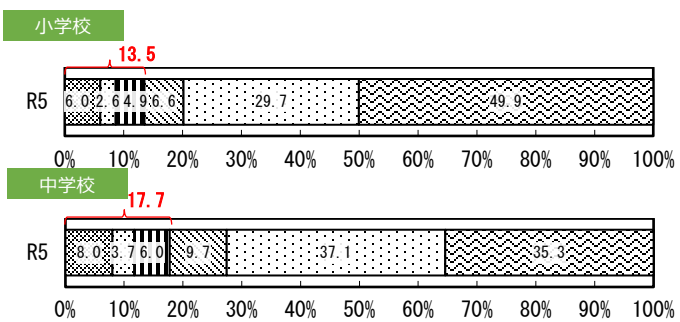




(4) 児童生徒の心身の状況の把握（新規）



(5) 児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援（新規）

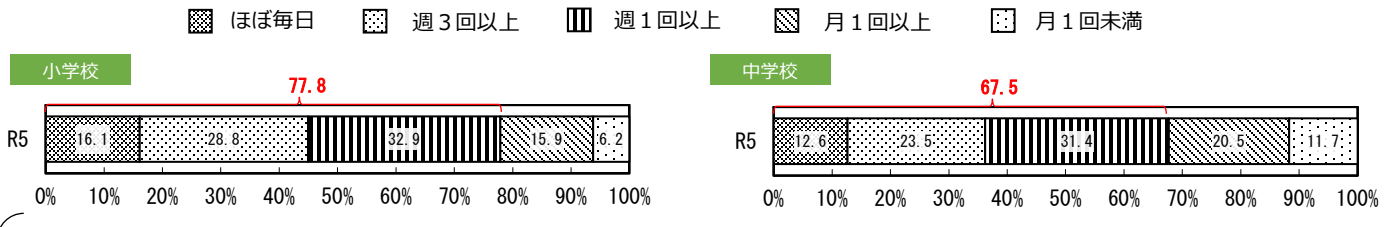


② 個別最適な学び（個に応じた指導）や主体的・対話的で深い学びにおけるICTの活用状況等

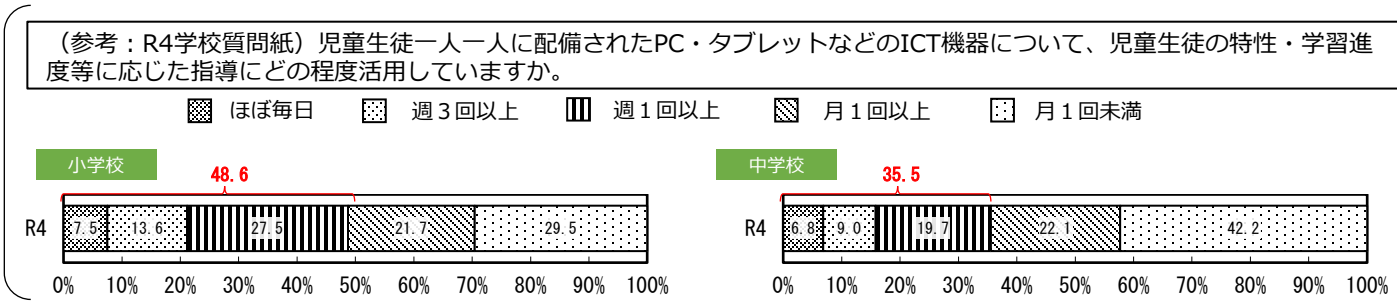
分析結果のポイント

○個に応じた指導など、授業における様々な場面でICT機器が活用されている。また、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行っている学校ほど、ICT機器を活用している傾向が見られる。

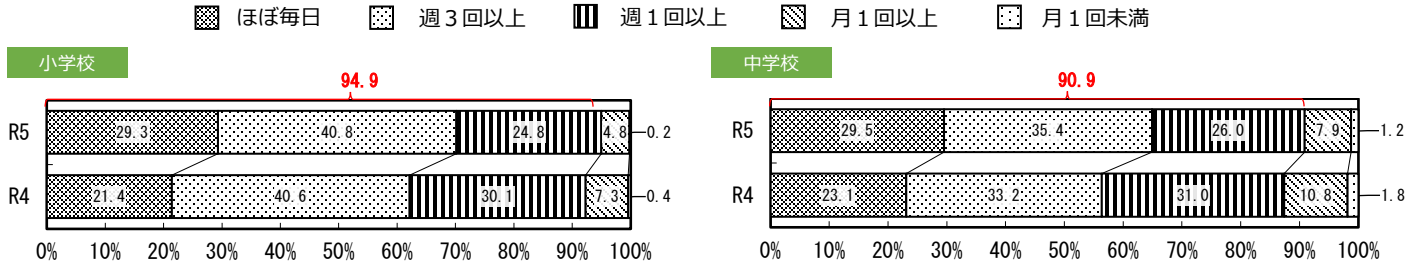
【学校】 調査対象学年の児童生徒が**自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面**では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。（新規）



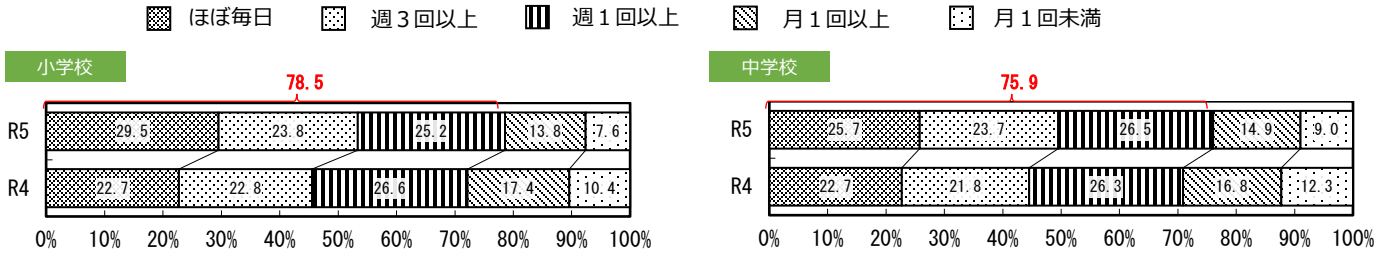
（参考：R4学校質問紙）児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童生徒の特性・学習進度等に応じた指導にどの程度活用していますか。



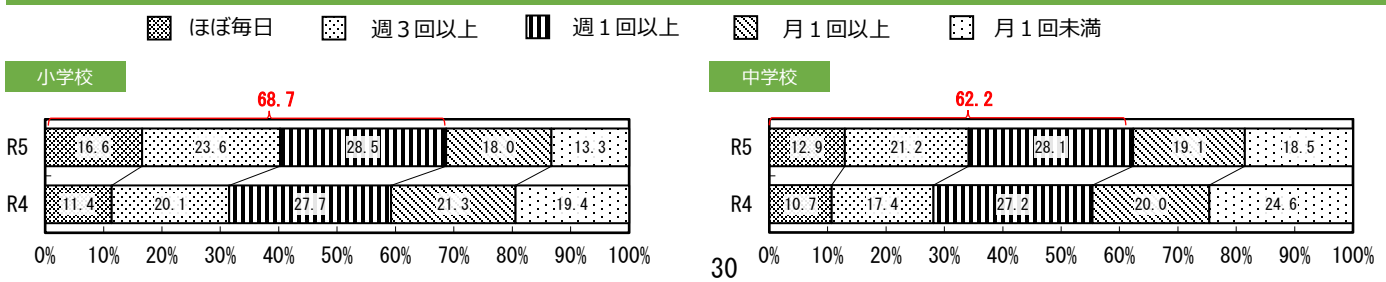
【学校】 調査対象学年の児童生徒が**自分で調べる場面**（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。



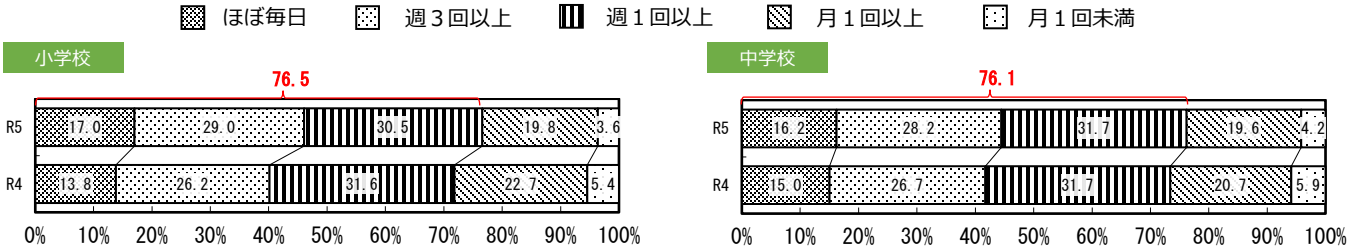
【学校】 **教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面**では、 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。



【学校】 調査対象学年の**児童生徒同士がやりとりする場面**では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。



【学校】調査対象学年の児童生徒が**自分の考えをまとめ、発表・表現する場面**では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。



「ICT機器の活用」と「主体的・対話的で深い学び」との関係

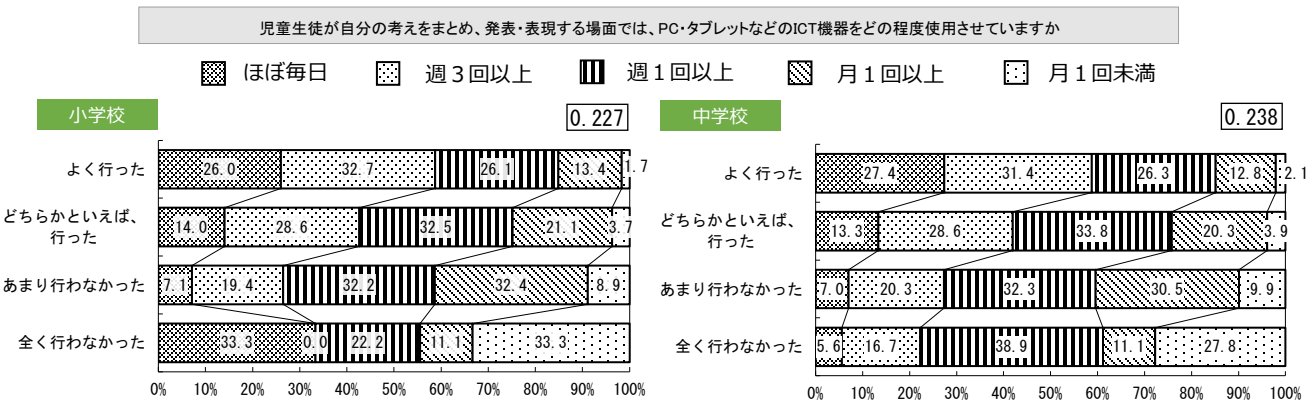
○**主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行っている学校ほど、ICT機器を活用している**傾向が見られる。

○**主体的・対話的で深い学びに取り組んでいる児童生徒の方が、平均正答率が高い**傾向が見られる。

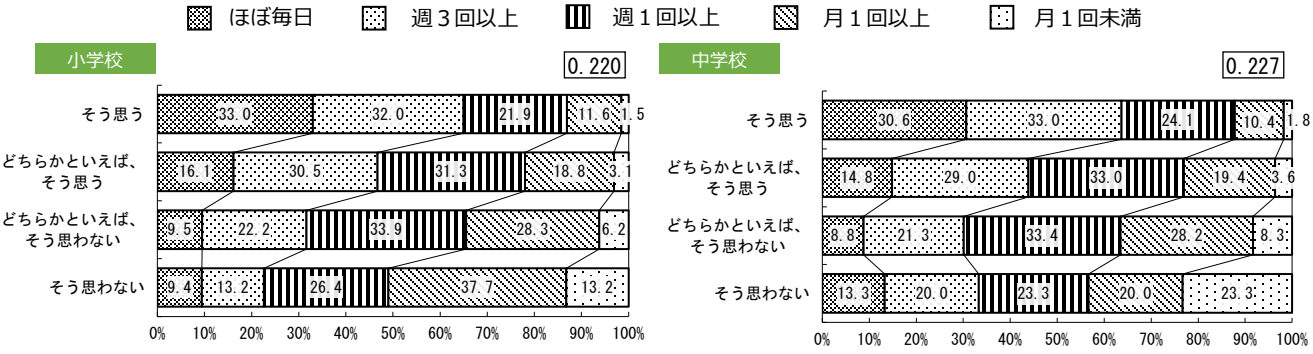
［主体的・対話的で深い学び］×［ICT機器の活用］

クロス集計

児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、発表するなどの学習活動を取り入れましたか

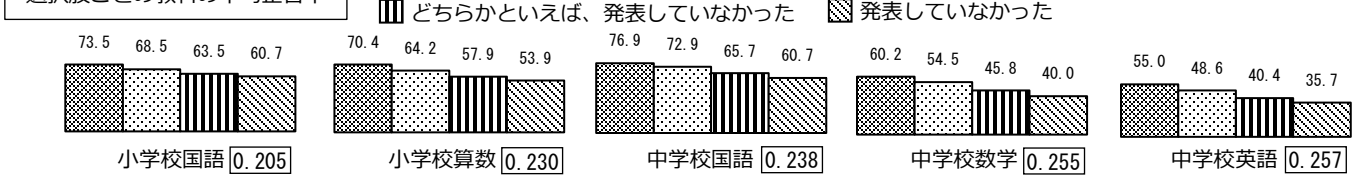


児童生徒は、学校において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていますか



［主体的・対話的で深い学び］と［平均正答率］との関係（再掲）

【児童生徒】５年生まで〔１、２年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

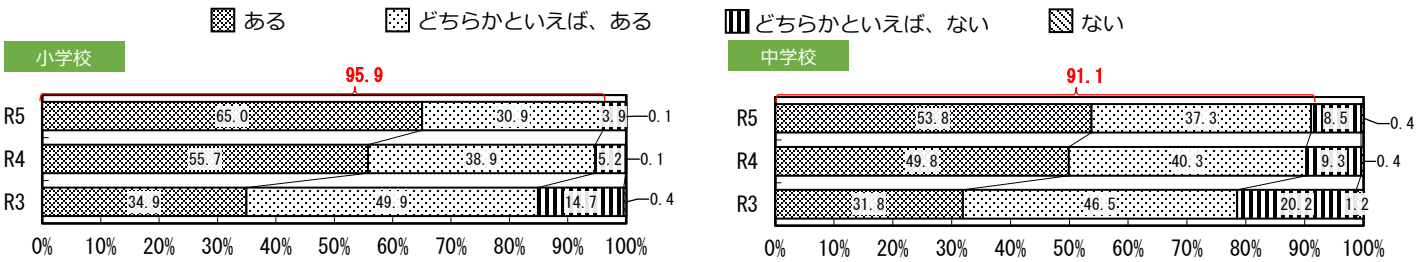


③ ICTの活用を推進するための有効な取組

分析結果のポイント

○教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会が設けられている学校の方が、ICT機器の活用が進んでいる傾向が見られた。

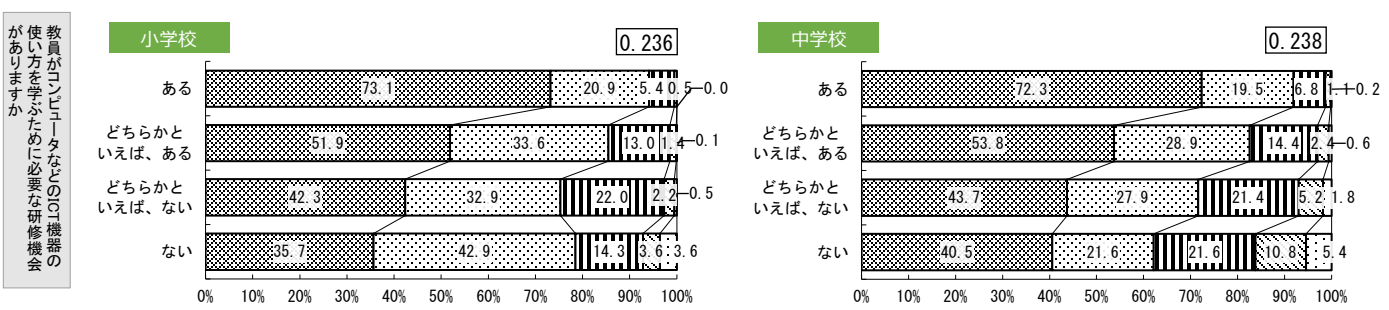
【学校】 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか。



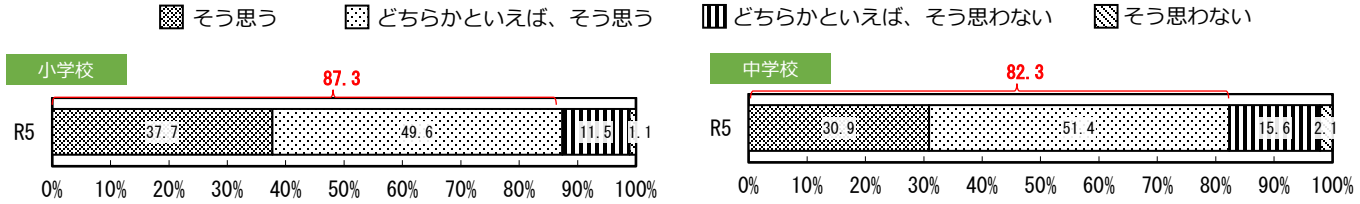
クロス集計

［ICT機器の使い方を学ぶ研修機会］×［授業におけるICT機器の活用頻度］

調査対象学年の児童生徒に対して、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



【学校】 コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか。（新規）



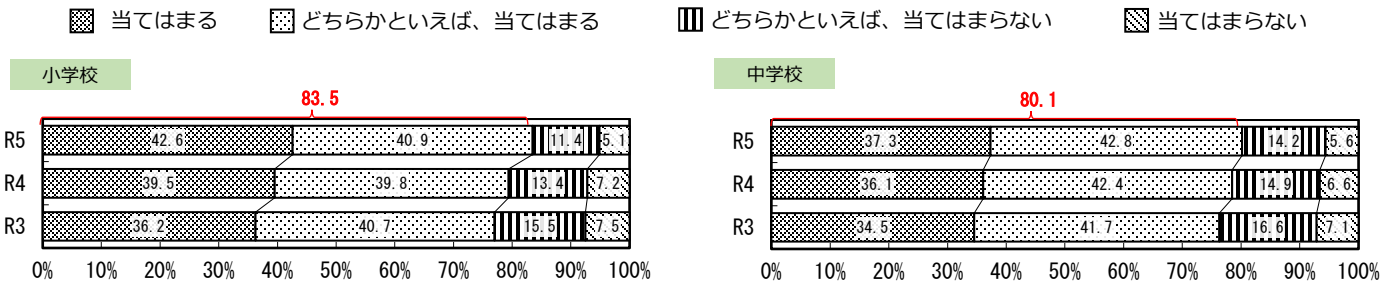
(4) 児童生徒の挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況

分析結果のポイント

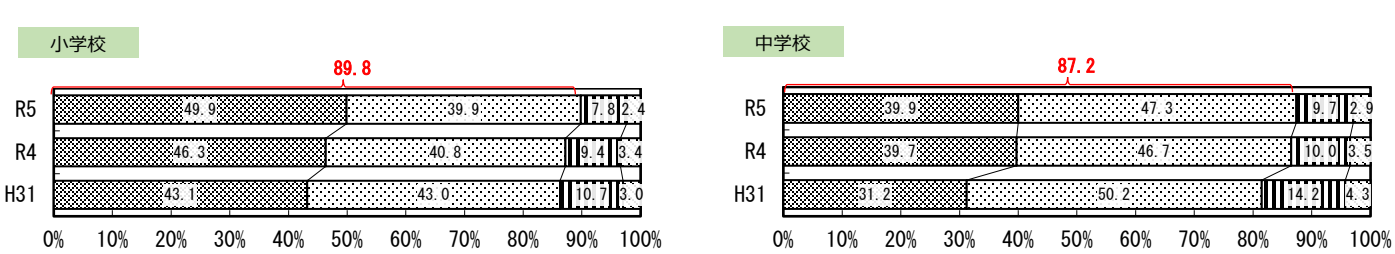
○「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問に対して、約90%の児童生徒が肯定的に回答している。

○主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びに関する設問と児童生徒の自己有用感等に関する設問との間には相関が見られる。主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性がある。

【児童生徒】自分には、よいところがあると思いますか。

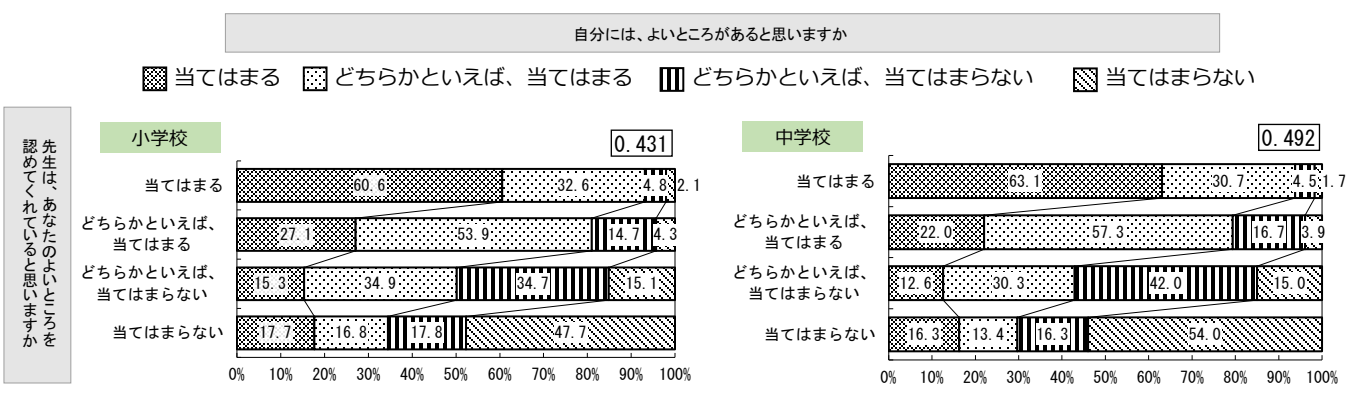


【児童生徒】先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

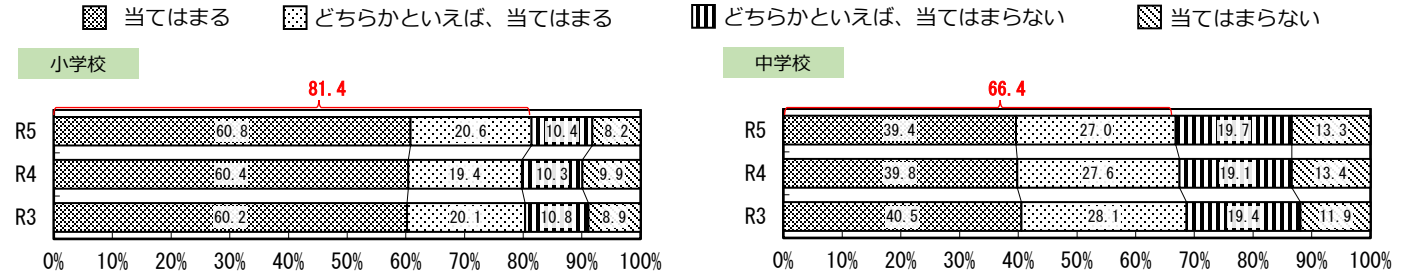


クロス集計

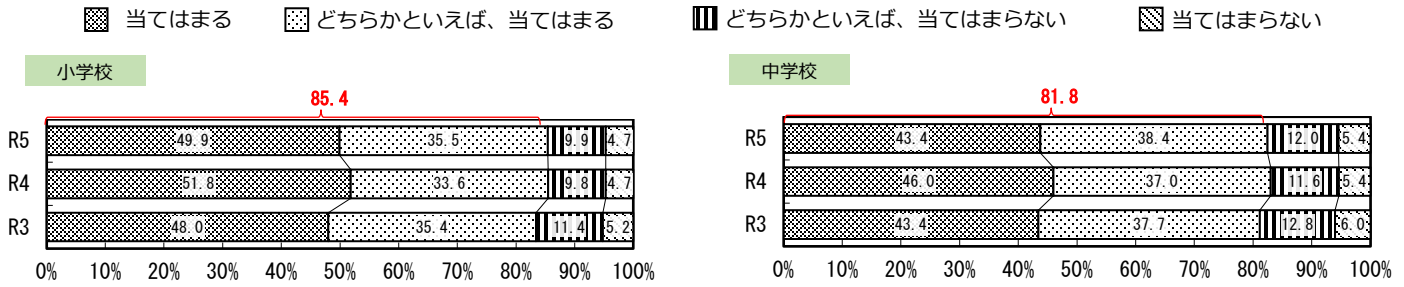
［先生がよいところを認めてくれる］×［自分にはよいところがあると思う］



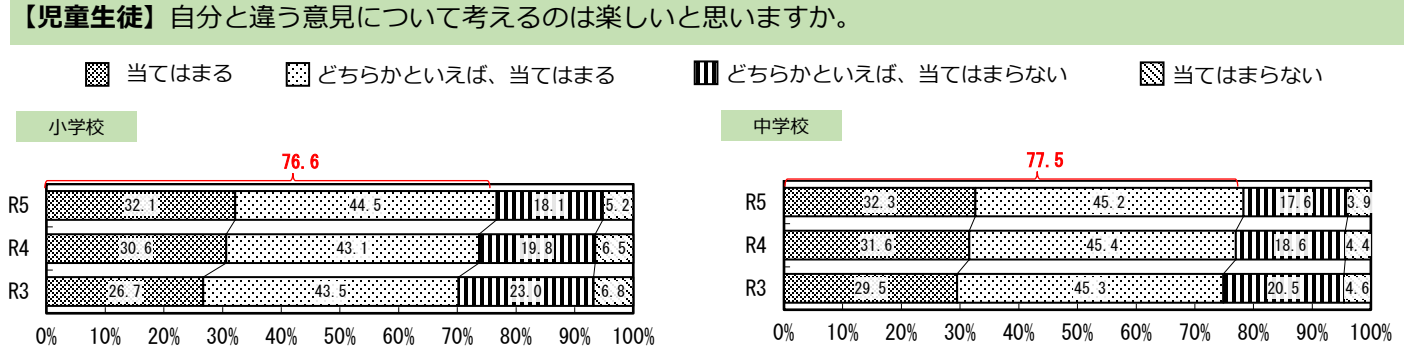
【児童生徒】将来の夢や目標を持っていますか。



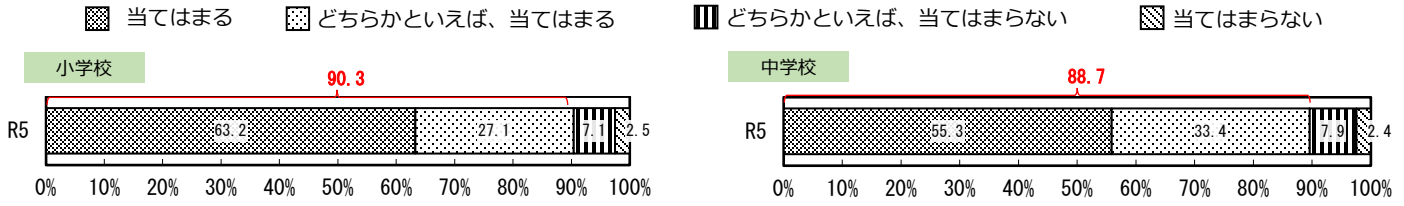
【児童生徒】学校に行くのは楽しいと思いますか。



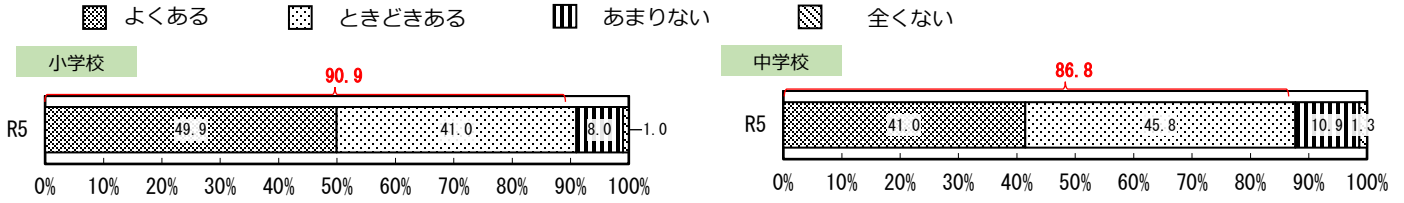
【児童生徒】自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



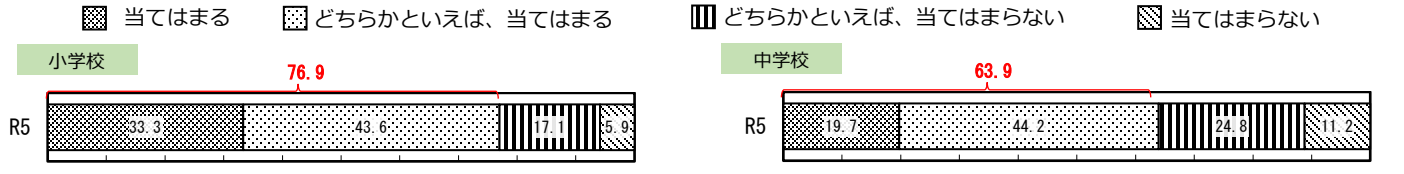
【児童生徒】友達関係に満足していますか。　（新規）



【児童生徒】普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。　（新規）



【児童生徒】地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。　（新規）

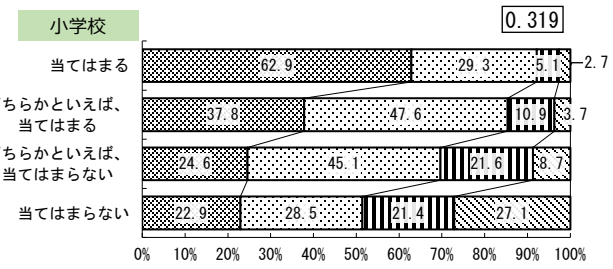


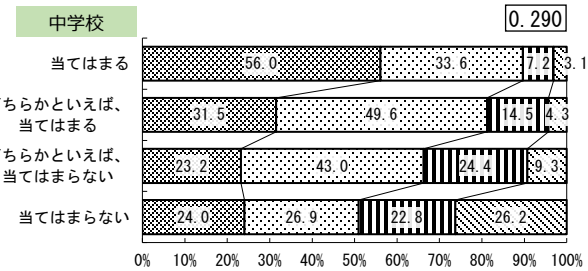
［課題の解決に向けて自分から取り組んだ］×［自分にはよいところがあると思う］

自分には、よいところがあると思いますか

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



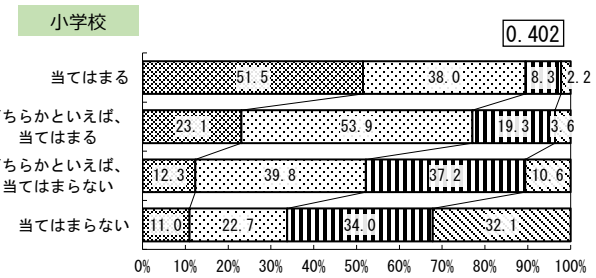


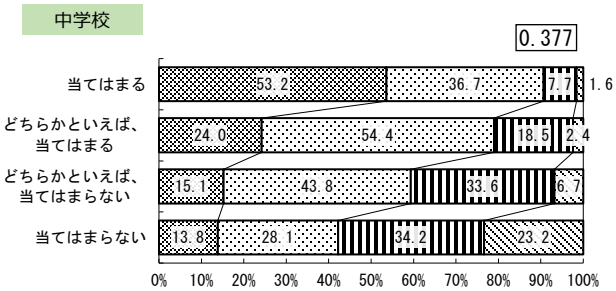
［話合いにより考えを深め広げた］×［自分と違う意見について考えるのは楽しい］

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



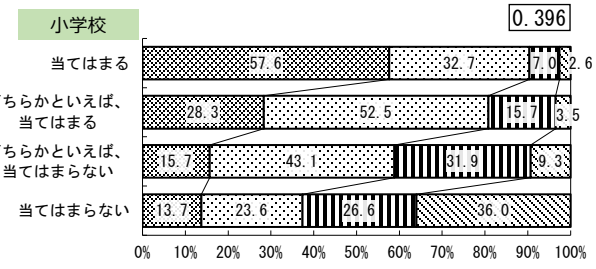


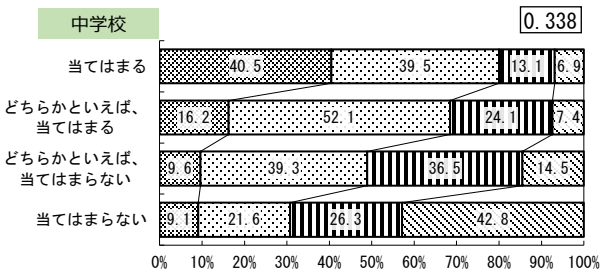
［学んだことを生かしながら考えをまとめる活動をした］×［地域や社会をよくするために何かしてみたい］

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



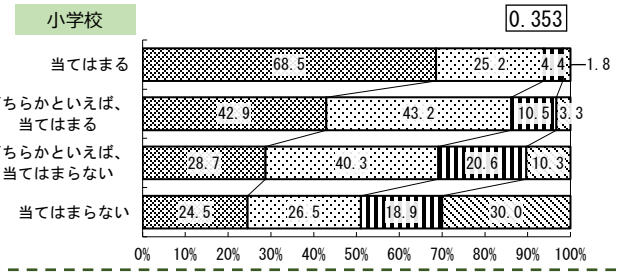


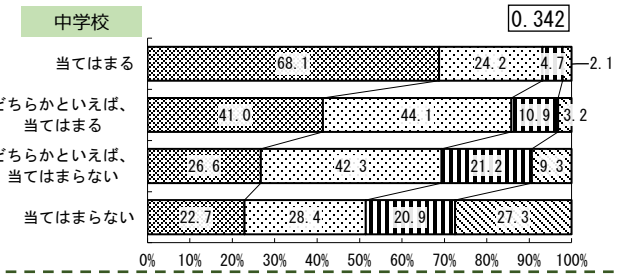
［自分にあった授業］×［学校に行くのが楽しい］

学校に行くのは楽しいと思いますか

当てはまる　どちらかといえば、当てはまる　どちらかといえば、当てはまらない　当てはまらない

授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか





４．文部科学省の主な取組一覧

１．学習指導要領の着実な実施

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

・学習指導要領の趣旨・内容の周知・徹底。（各都道府県等の指導主事を対象とした協議会の開催。）

・学力向上やカリキュラム・マネジメントに関する成果のとりまとめ・周知。

○指導改善に資する情報提供等（国立教育政策研究所）

・報告書（授業アイディア例を含む）を作成し、国立教育政策研究所のWebサイトに掲載（教育委員会や学校等で学習指導の改善・充実を図る際に活用）。

・全国説明会（各教育委員会、教員養成大学等対象）を開催し、学習指導の改善・充実のポイントを解説（８月22日（火）オンライン開催）。

・オンラインなども活用しながら、学力調査官等による教育委員会や学校への指導・助言を実施。

２．英語の学習指導の改善・充実

・教育委員会における英語力向上に向けた取組の支援（教師の英語力向上、小中連携等）。

・生きた英語に触れる機会の充実を図るため、ALT（外国語指導助手）の地方財政措置の拡充。

・教師の指導力・英語力向上のための年間を通じたオンライン研修の実施。

・海外の学校等との国際交流や協働的な学習の推進。

＜令和５年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた取組＞

・調査結果から見えた「話すこと」などの課題や指導のポイントを解説した動画を新たに作成（文部科学省YouTube channelにこれまで授業映像や解説動画を87本掲載）。

・各都道府県等の指導主事を対象とした協議会の開催や、MEXCBT（文部科学省CBTシステム）への調査問題の搭載等、調査問題を活用した学習指導の改善を促進。

・デジタルを活用したパフォーマンステストの実施促進など言語活動の充実。

３．GIGAスクール構想の更なる取組の推進

令和５～6年度を集中推進期間として、自治体・学校への伴走支援の取組を抜本的に強化。

・GIGA StuDX推進チームによる研修の実施、自治体の課題に応じた支援の提案。

・国費による学校DX戦略アドバイザーの派遣等による支援。

・切れ目のない研修コンテンツの提供。

４．児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組の推進

・道徳教育や特別活動、体験活動、生徒指導など学校教育活動全体を通じて児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組を推進。

５．学校における指導・運営体制の充実

・小学校における35人学級の計画的整備や高学年教科担任制の推進等のための教職員定数の改善。

・教員業務支援員や学習指導員等の支援スタッフの充実。

６．調査結果を活用した追加分析等

○令和５年度調査の結果を活用した追加分析

・令和５年度調査の英語の教科調査や質問紙調査の結果と英語教育実施状況調査の結果を重層的に分析し、英語の学力に関する課題や、英語の学力の向上に影響を与える学校・教育委員会等の取組等について分析。

○個票データの貸与

・大学等の研究者による多様な学術研究の分析や、公的機関の職員等による教育施策の改善・充実を促進するため、個票データ等の貸与を実施。